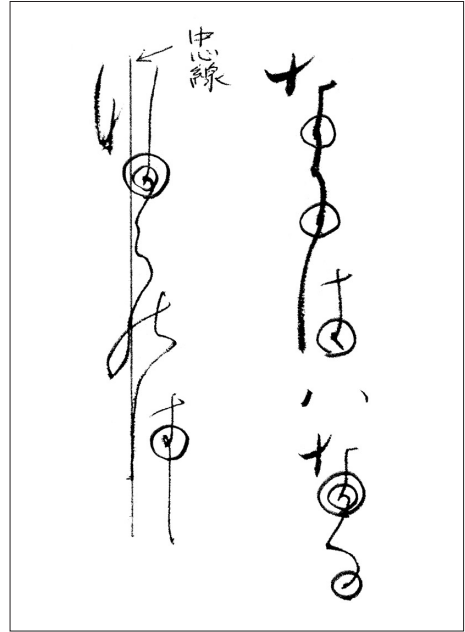


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

元永本古今集(1051)

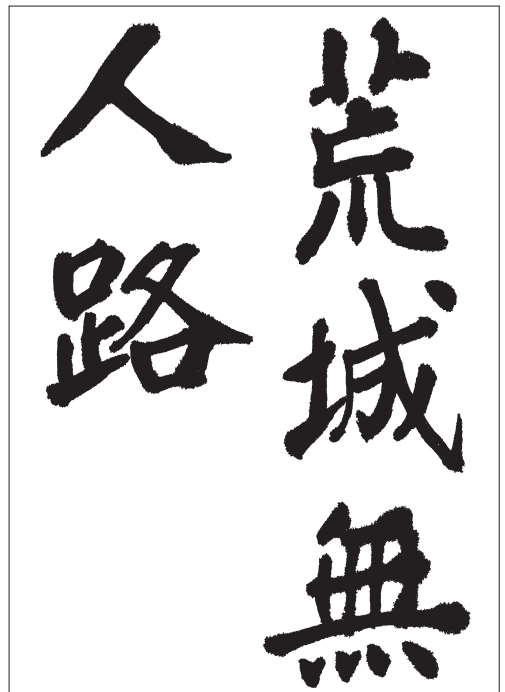


- 1、字句⁽¹⁾は八なる 那可ら能はし
- 2、形式⁽²⁾半紙をたてに使い、小筆で、一行目「なるとは八なる」二行目「那可ら能はし」と臨書する。落款は、左余白に本文に添う大ききで「○○臨」と入れる。
- 3、概観⁽³⁾これまで元永本の特徴を①漢字とかなの調和②放ち書き③連綿の三点から学んできました。今回は、側筆の筆使い。小さな結び。多字数近道連綿について学びます。側筆を用いて縦画を書くことにより、直筆、側筆の線質の変化即ち立体感を出しています。結びの部分に余白がない小さな結びは、上品さを感じさせています。「近道連綿」により、行にはゆらぎが少なくすっきりとしています。
- 4、学習のポイント
 - △側筆で書く▽軸を右に傾けて書く。
 - 「な・尔」の全体と連綿線。「は・八・那」の一筆目。「な」の一、二筆目。太い線は側筆で書く。他は軸を立てた直筆で書く。
 - △小さな結び▽連筆を小さくする。
 - 「○」は、結んだらすぐ次へ向かう。ただし「◎」では、結んでから横に少し張って「る」や「ら」へ向かう。
 - △近道連綿▽「那」から「し」までの六文字。「那」の中心線をもとに行を見ると、「可」以下の文字はいずれも中心に書かれてはいない。文字の連なりは、先回学んだように、このようになるのが自然である。すべての文字の中心をそろえようとすると、連綿の場合は連綿線が長くなっていく。今回は、連綿線を直線的、かつ、短めに引く。

半 紙 課 題 (予 告)

(十一月二十二日締切)

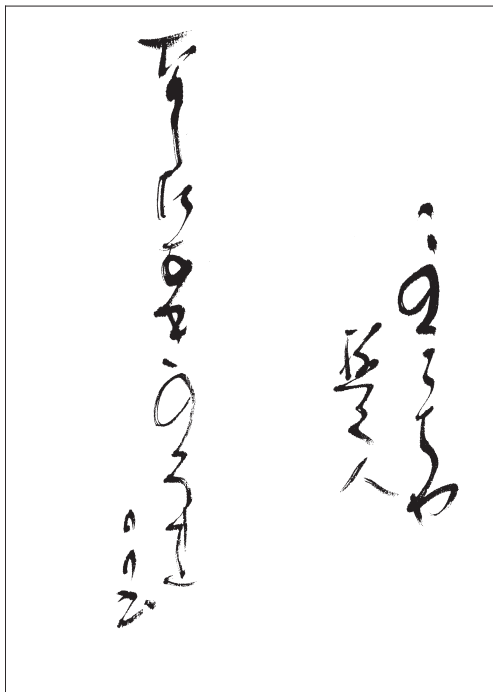
平岡華雪先生書 荒城の无路無し(劉復)



訳：荒れ果てた城に人がいた気配は何もない。

平岡華雪先生書

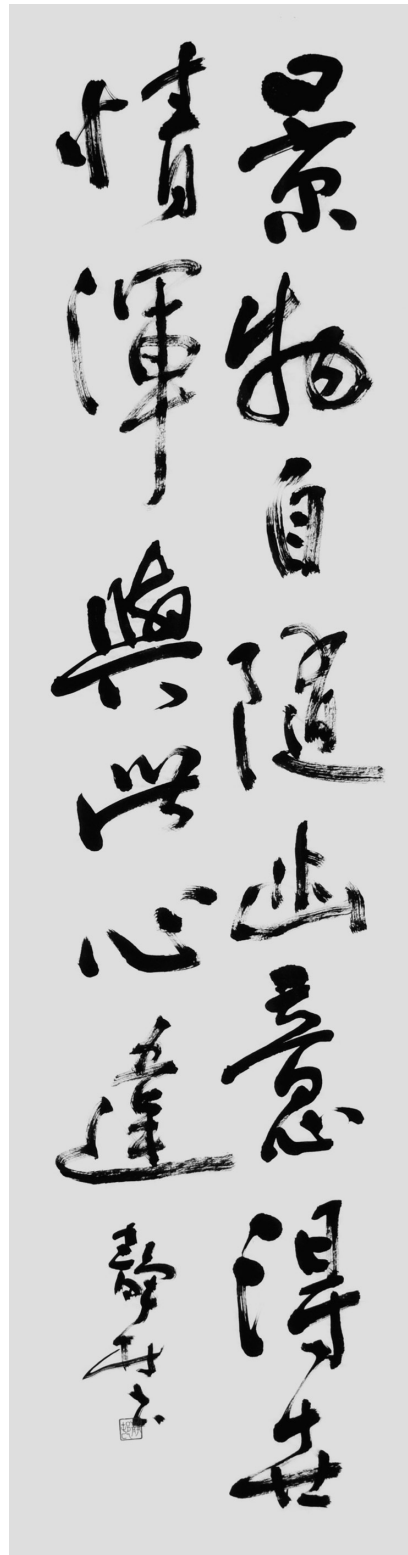
此道^{このみち}や行人^{ゆくひと}なしに秋^{あき}の暮^{くれ}(芭蕉)



A

鈴木静村先生書

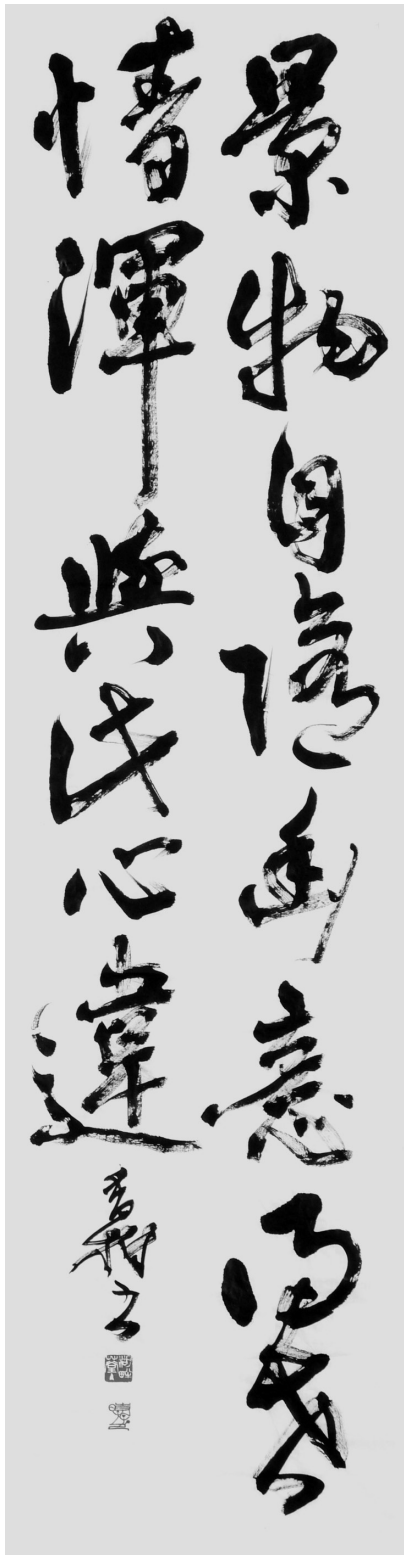
景物自隨幽意得 世情渾與此心違 (陳留)
景物おのずから幽意に随うて得、世情渾てこの心と違う。



B

高橋香樹会长書

隨 古典では「隨」が殆ど。得 行書は三水偏が多い。渾 縦画が弱い。真似せず張りを。與 蘭亭序参照、下部左点は横画に掛ける。此 〃與此
“横画同調? 打開を。違 〃草 萎縮気味、より伸びやかに。



例月より少し長めの羊毫筆をしようした為に渴筆が多くなりました。行の出入りは、半切の二三行書では特に重要かと思えます。一行目では、「物・随・意」で、二行目では「渾・與・違」で幅を取りましたが、「意」と「違」は少し重なりました。連綿は「得世」だけですが、他も次字への意連は意識しました。墨継ぎは「得」と「與」。

訳：景物は自然とすかな気持ちによって得るが、世の情態はすべてこの心と反対で、くいちがうことが多い。

予告 (十一月二十二日締切)

露溥金井桐陰薄

月上瑤階竹影脩 (李祁)

◆注意

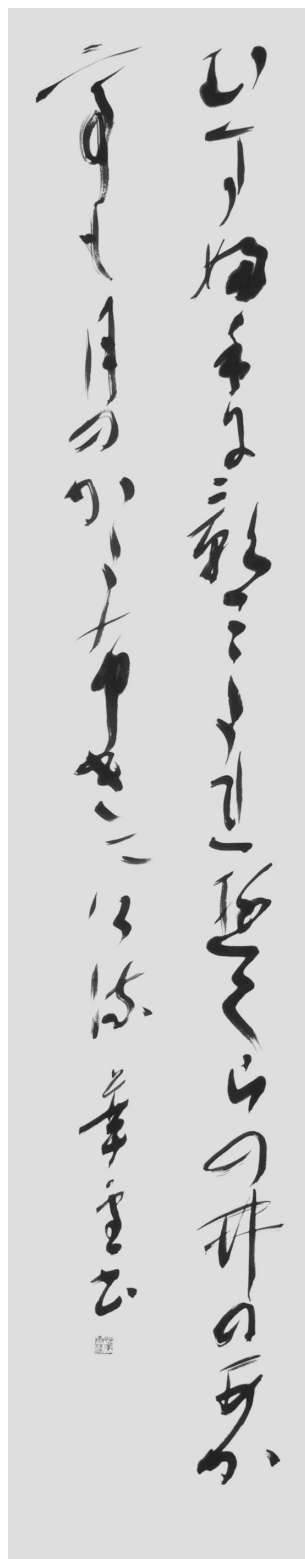
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

むすぶ手に影みだれゆく山の井のあかでも月のかたぶきにける
むす婦手^に影^み三多^た連遊^れ久山の井のあか亭^ても月のか多^た布^ふき二介^に流^る

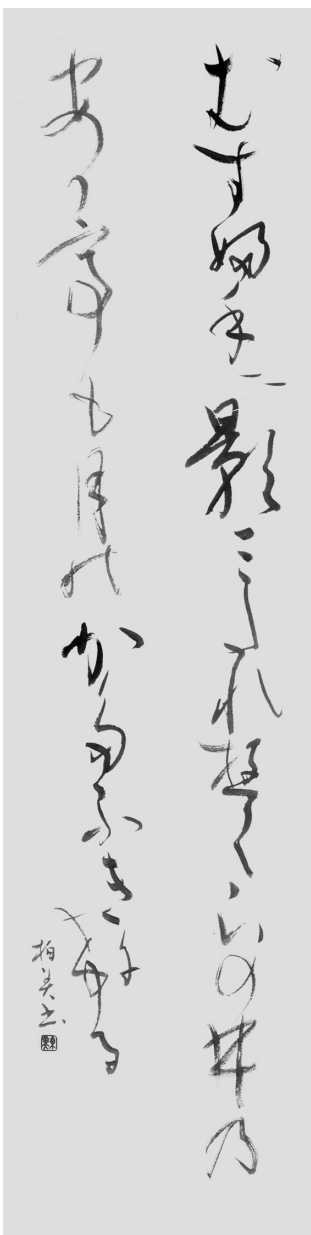
(新古今和歌集 前大僧正慈圓)



B

石島柏美先生書

むす婦手^に影^み三多^たれ遊^ゆく山の井^の乃安^{のあか}可亭^{かて}も月能^のか多^たふ^ふき^に希^ける



慈圓は平安時代末期から鎌倉時代初期の僧侶、歌人。九条家の一人として政治にも参与、四度も天台座主となる。又、良経、定家らと共に新古今和歌集の代表歌人の一人。技巧に走らず、清らかな心境を詠んだ歌が多い。家集に「拾玉集」、史論書に「愚管抄」がある。

学び方

華雪先生の書はきりっとした線の強弱、墨色の変化でまとめ余白の美しさが生かされた放ち書きの作品です。今回、慈圓の歌の「山の井の水に映っている月の光」の清々しい情景を思い浮かべながら二行書きでまとめました。先ず行の流れに気を配ります。一行目の書き出しは小さく、二行目から「影」で強調し、縦画の長・短に変化をもたせ「山の井乃」まで流れに緩急をつけながらリズムに筆を運びます。二行目は一行目の流れに呼応するように四句目はゆっくりと大らかに渴筆で書き進めます。最終句「か多ふき希る」で墨を入れ全体を引き締めます。下部で重くならないように、特に「希る」は細目の線でまとめました。仮名作品の場合、連綿を取り入れることで行の揺らめきが生まれ仮名の美しさを表現できますので創作する上で生かしてほしいと思います。

予告 (十一月二十二日締切)

道のべに立てる夏草あきらかにその根の見えて秋さりにけり (窪田空穂)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

酒井香雨先生書

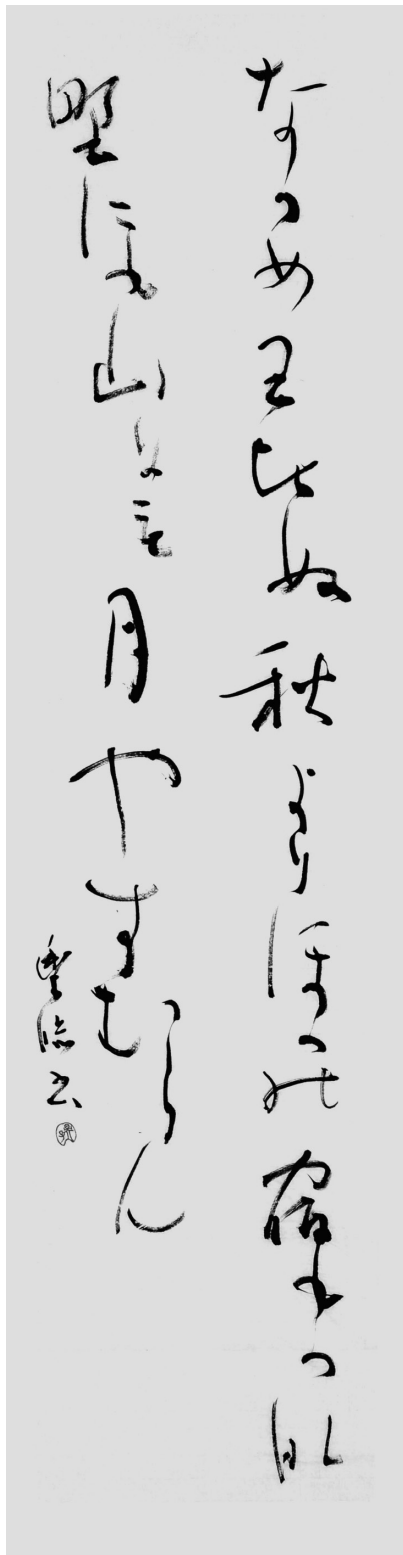
視聽言動皆有法 盃盤几席盡書箴（唐伯虎）
しちやうげんどうのみなほうあ さいばんきせきじょうと しんしよ
 視聽言動皆法有り、盃盤几席尽く箴を書す。



訳：視るにも聴くにも言うにも起居にも法則があり、酒杯や皿鉢や机などに至るまで守るべき銘文が記されている。

吉原豊臨先生書

ながめわびぬ秋よりほかの宿もがな野にも山にも月やすむらん（新古今和歌集）
なかもめわびのあきよりほかのやどもがなのもりにもやまにもつきやすむらん
 式子内親王



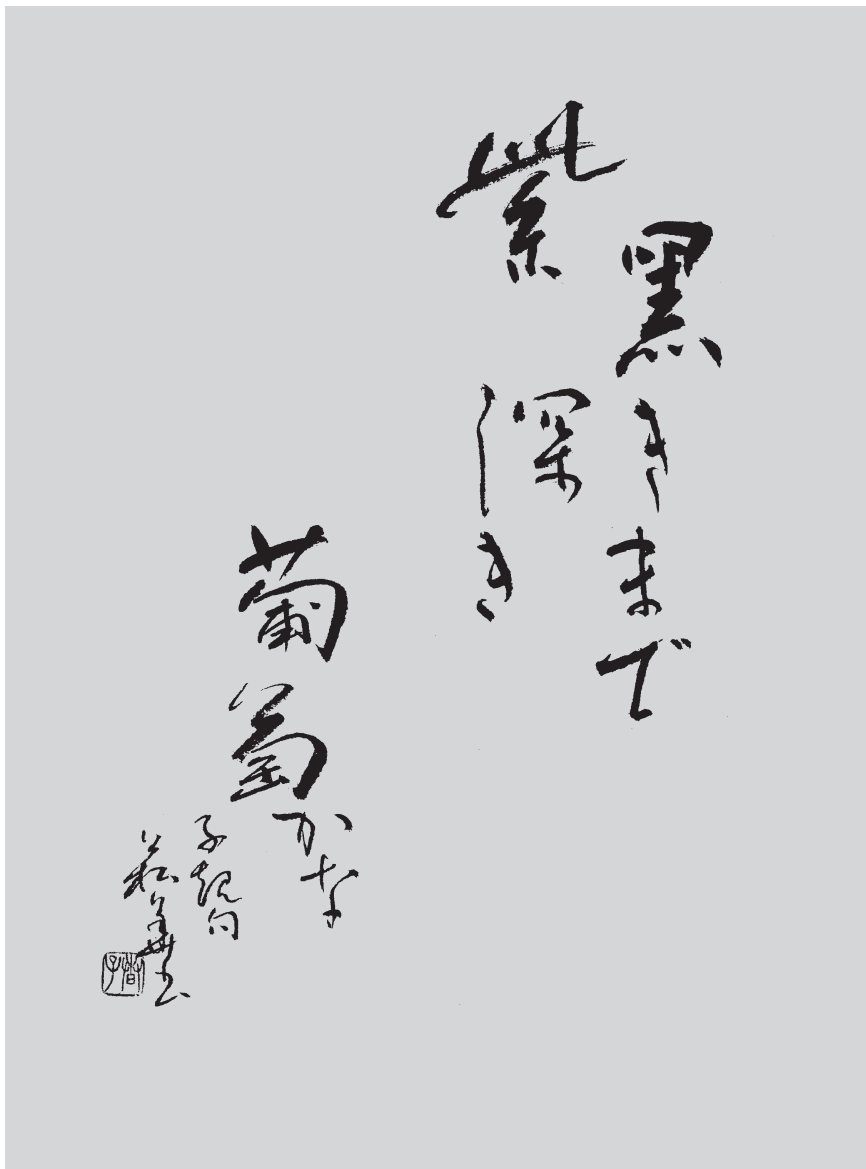
- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮 菘華 先生 書

黒きまで紫深き葡萄かな

正岡子規

漢字の多い俳句なので文字数が少ない。十一字のうち、漢字が五字あります。漢字を活かすよう、かなをうまくマッチさせて下さい。全体を三つに分け、一行目と二行目の間隔を狭く、二行目と三行目に余白をとり、紙面の両サイドの余白も多めにしました。余白が多いので思いきりよく伸びやかに書き下さい。皆さんのアイデアを生かした作品を楽しみにしています。



正岡子規（一八六七～一九〇二）愛媛県、松山市に生まれる。俳人、歌人。文章革新運動を推進。「ホトトギス」を創刊。著書「病床六尺」「歌よみに与うる書」など。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

道を治むるには玄黙を尚ぶ(たよ)(耶律楚材)
訳…道をおさめ修業するには、沈静が大切である。

〈道・黙について〉
下方にしめる形の「治、尚、玄」に対して、広がりをもせている「道、黙」。その主点は、「シンニョウとレンガ」。この用筆をスムーズにさせたい。この部首によって一字を活かさせたい。



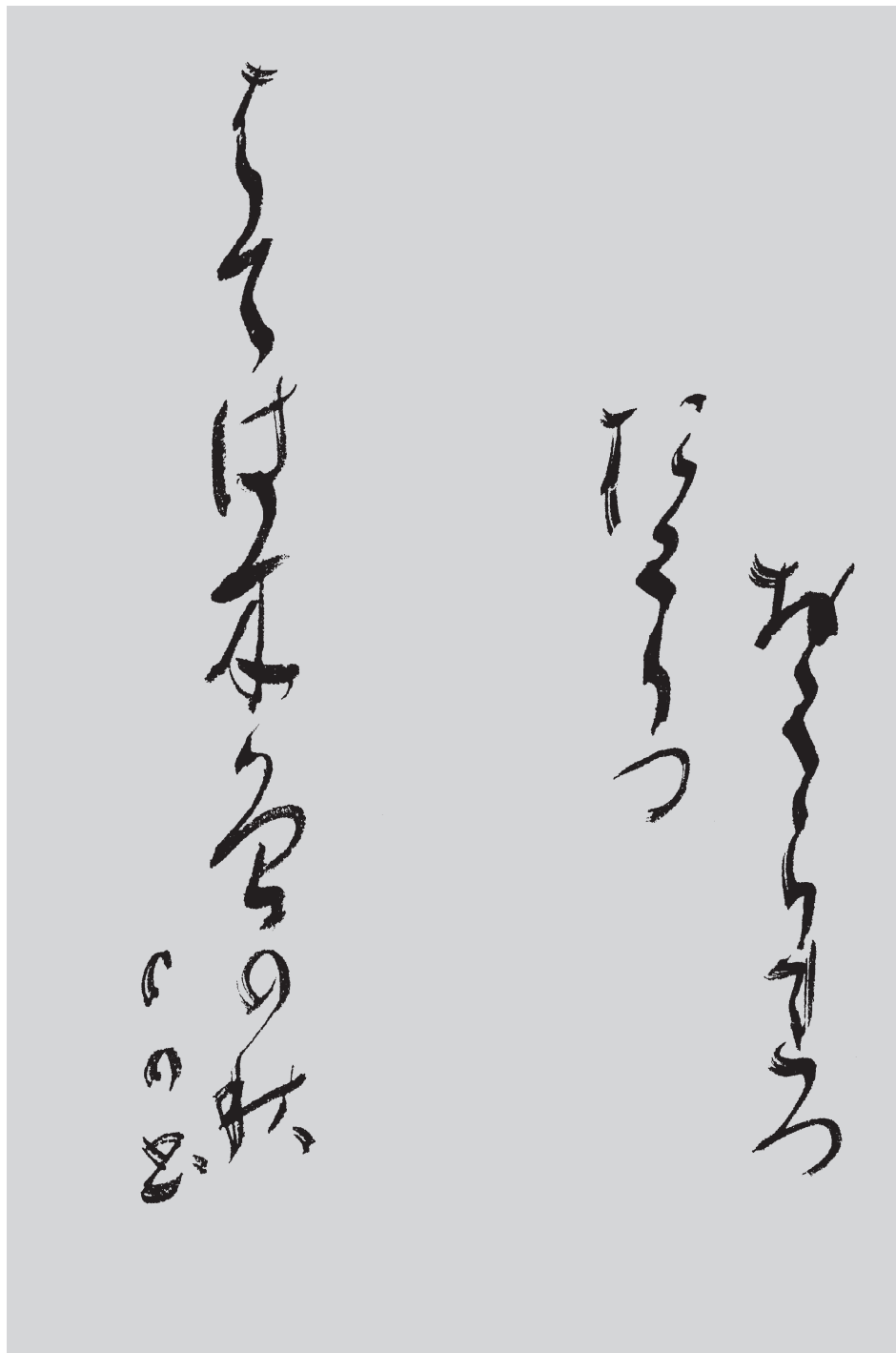
・印、接しない

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

おくられつおくりつ果は木曾の秋(芭蕉)
 おくら連つ於久りつ者ては木曾の秋



〈墨継ぎの場合〉

墨継ぎがはっきりしませんが、先生が時折書かれる一筆書きかもしれません。この表出では、特に、左群が単調になり易いことです。それには「者ては」まで渴筆をがまんし、「木」で墨継ぎ、潤のアクセントを、「曾」は大きく、「の秋」を小さく細めて収め、落款をサラリと添える手法…。右群は一行目五字連綿、二行目は強調気味、「つ」は続けを切って変化。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

梅 林 寺 爽 葉 先 生 書

登舟命楫師（孟浩然）
舟に登って楫師に命ず



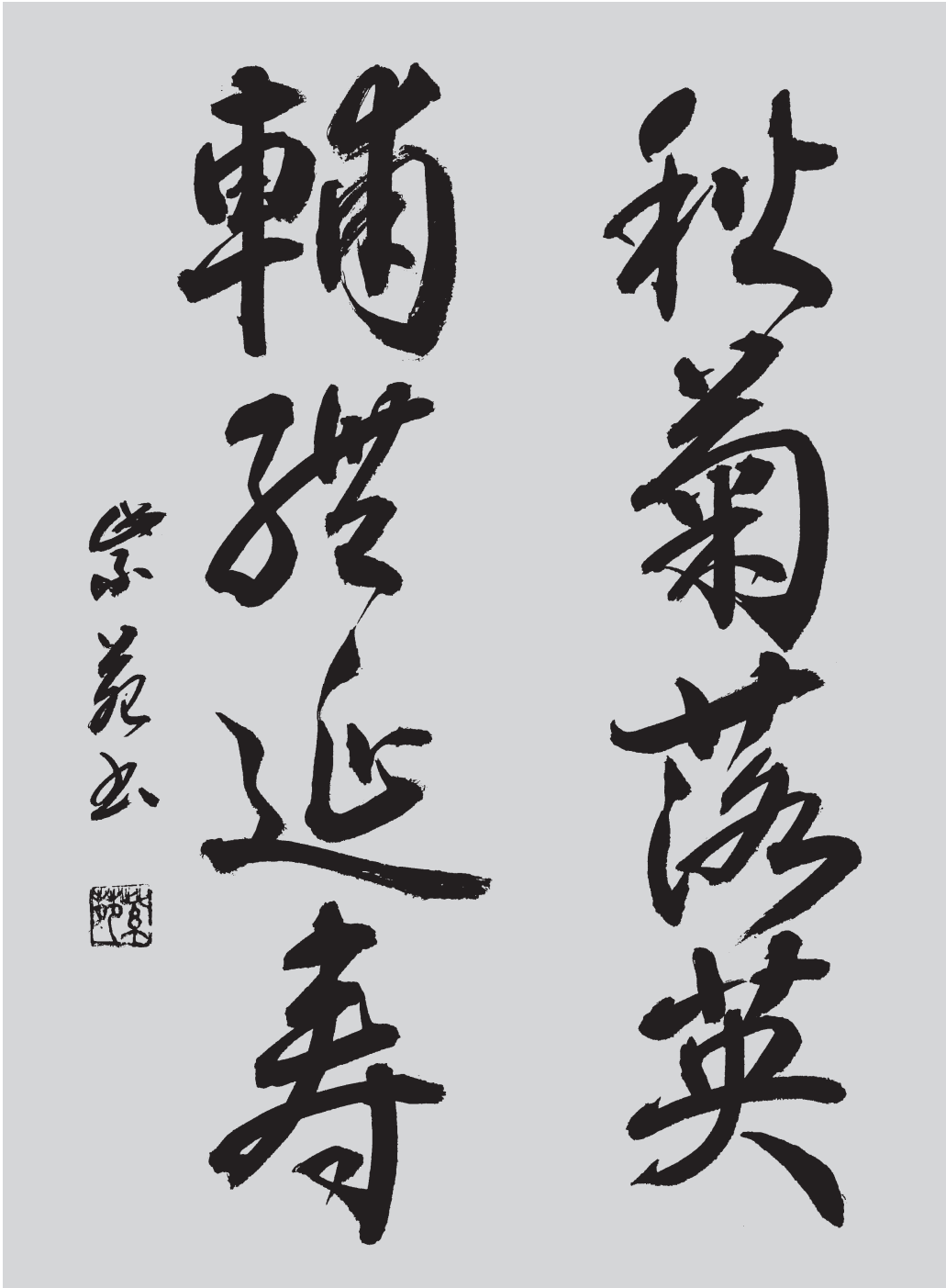
訳：私たちは舟に乗り、船頭に出発を命じた。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随意部参考

山田紫苑先生書

秋菊落英 輔體延壽(文帝)
秋菊の落英、体を輔け寿を延ぶ。

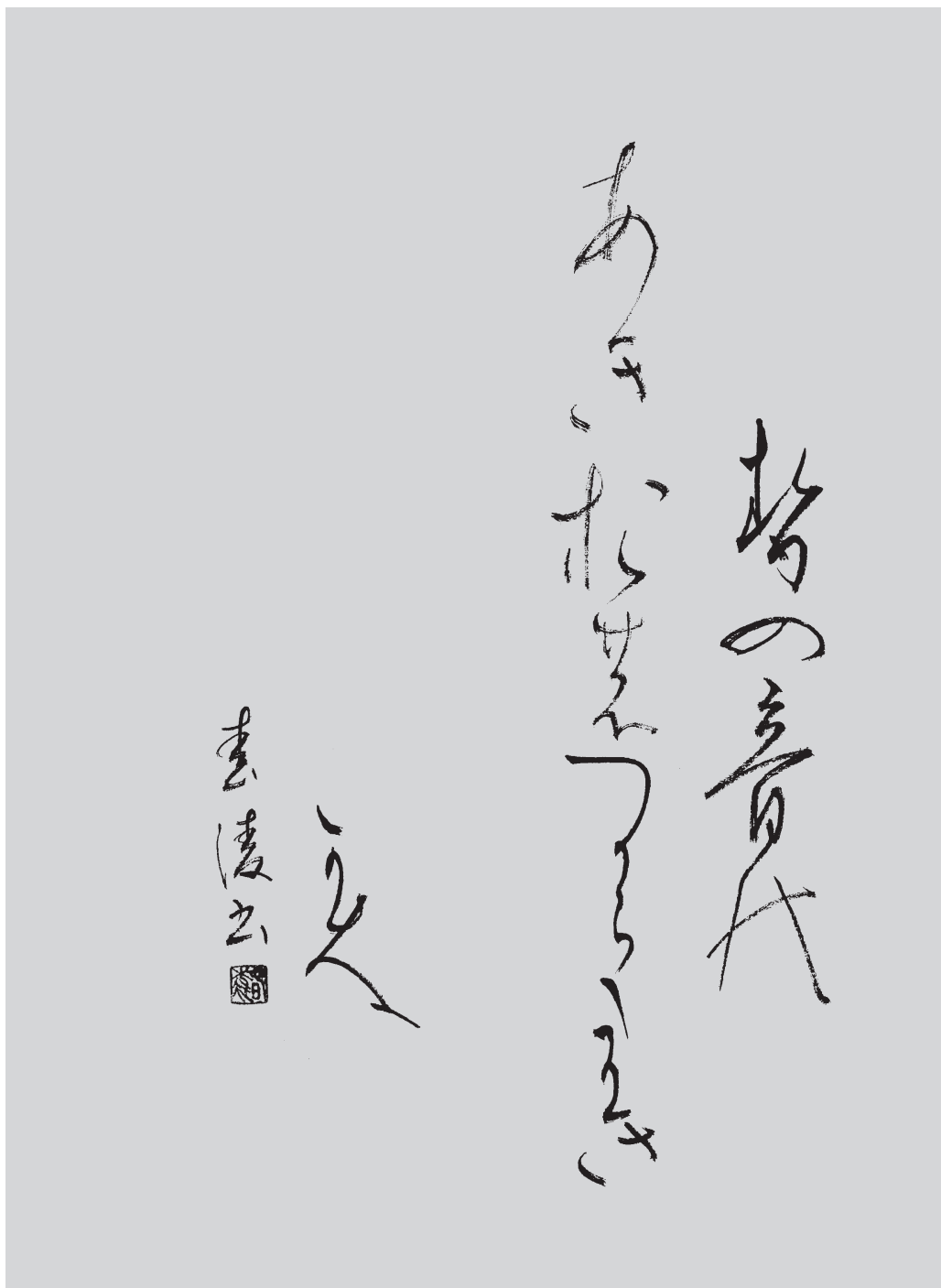


訳：秋の菊の落花を食べば、身体を達者にして寿命をのばす。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

武井春凌先生書

瀬の音せのおとの秋あきおのづから高たかきかなかな（久保田万太郎）
勢せの音おとあきあき於おの農のつ可から多た可かき可か奈な



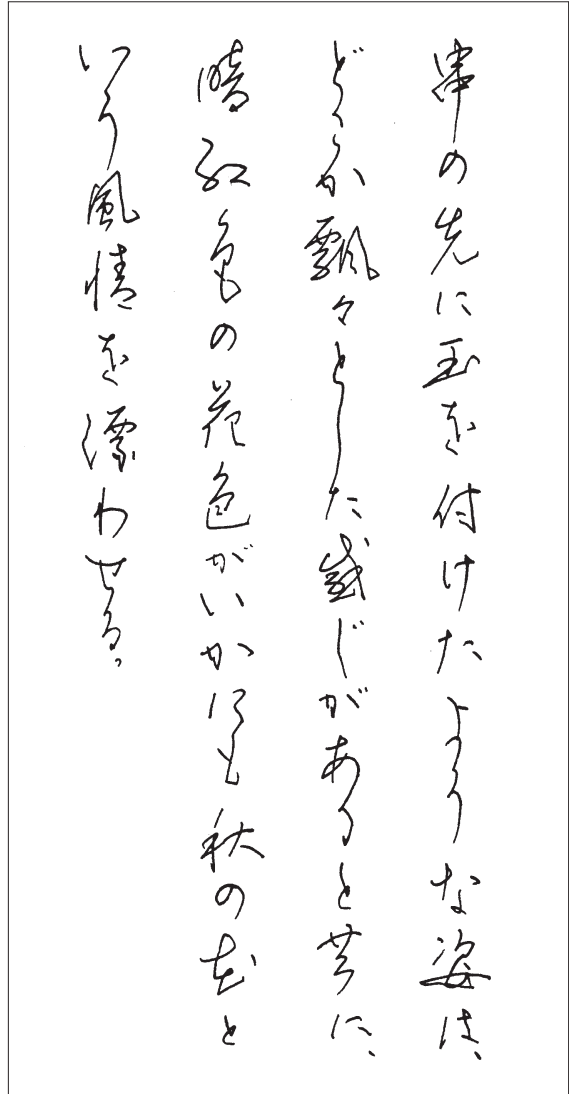
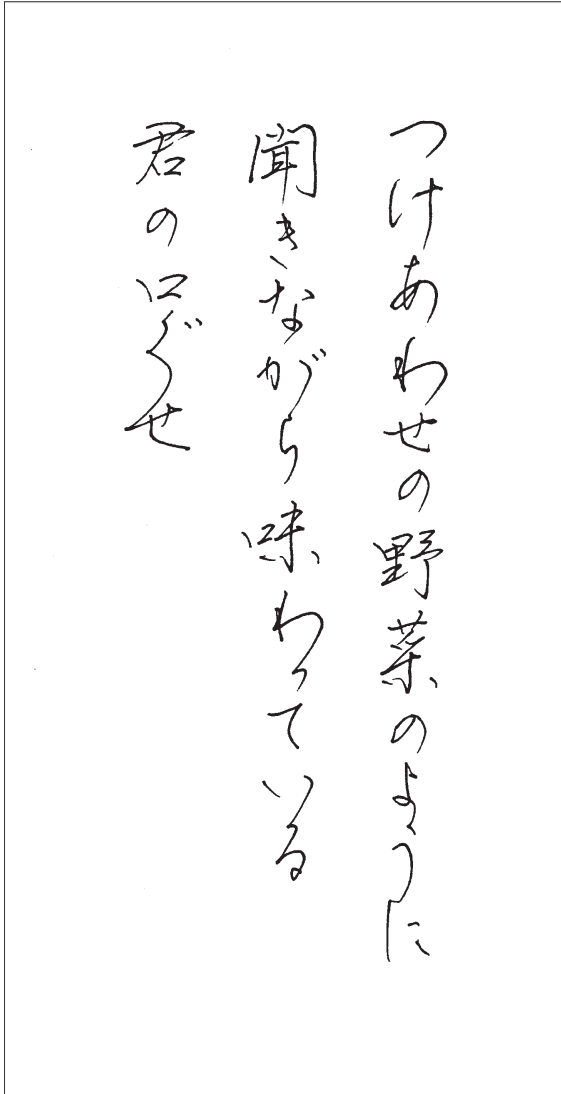
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

串の先に玉を付けたような姿は、どこか飄々とした感じがあるとき、暗紅色の花色がいかにも秋の花という風情を漂わせる。
「柳宗民の雑草ノオト」ワレモコウ

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

つけあわせの野菜のように聞きながら味わっている君の口ぐせ

「トリアングル」 俵万智

研究部 課題

(十月二十二日締切)

(課題)

秋 聲

(読み) しゅうせい

(意味) 抽象的に心の耳に

きこえる秋の声

▽注意

(1) 半切1・2横使用

(2) 書体は自由

(3) 落款は「公茂書」と書き入れること。

▽出品要項

(1) 資格—推薦、準推薦・推薦合格者(漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)

(2) 締切—十月二十二日必着

(3) 成績発表—書廷十二月号誌上

(4) 出品料—九二〇円同封

(5) 出品方法

ア、出品は一人一点とする。

イ、左の出品票(私製)を作品の

左下にぶら下げて貼付する。

のりしろ	
研究部	
10月22日締切	
10センチ	(支部名) フリガナ (姓名(号))
5センチ	

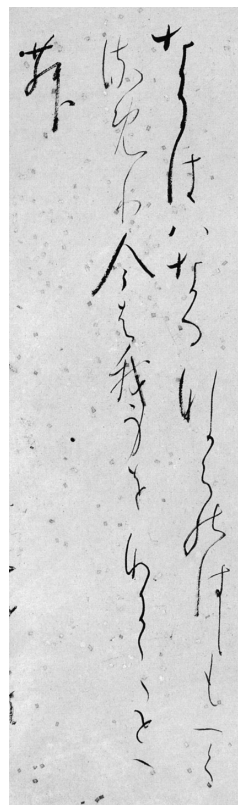
※出品票は審査前に作品から切り離して処理するため、小さすぎないように注意して下さい。

※出品票は必ず楷書で正しく、ハッキリと記入すること。

※名簿作成の都合上、姓名(号)にはフリガナをつけて下さい。

※バーコード券は貼付しない事。

元永本古今集



条幅随意部として

『な^には八^はなる那^な可^から能^のはしもつく流^る免^め利^り今^は者^は我^は身^を那^な尔^に、多^たとへ舞^む』
半切に三行に臨書する。落款は三行目に全体の調和を考えて「〇〇臨」と入れる。

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書 (十月二十二日締切)

課題

(1) 書体自由

(2) 半紙タテ ※ヨコは中止

(3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる

(4) 出品料 四三〇円

(5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に

一字と記入 段級は無記入

巖